

地域の居場所づくり 交流会X@茅ヶ崎

3.28 Sat.

14:00 ~ 17:00



参加費無料

対話（ダイアログ）をベースとした「安心の居場所づくり」

ここ数年、オープンダイアログという言葉を目にする機会が増えてきました。オープンダイアログとは、1980年代にフィンランドで発展し、精神医療の分野で用いられる対話的アプローチを指します。

すぐに診断や結論を出さず、開かれた対話を通じて理解を深めるのが特徴で、治療チームは傾聴と共感を重視し、当事者自身の語りを大切にします。最近、医療現場のみならず、まちづくりコーディネーター養成など、医療を超えた多様な分野からも注目が集まっています。

そこで、10回目となる今回は、居場所づくりにおける「対話のあり方」に焦点を当て、どうしたら人々が安心して語り合う場をつくることができるかを、ダイアログの手法に詳しいゲストスピーカーの藤島さんから学びます。講義に加え、リスニングワークやリフレクティングなどのワークショップ体験を通して具体的な技法を学びながら、多様な「対話の技法」を地域の居場所づくりにどう活かすことができるかを語りあいます。

プログラム

- 開会、趣旨説明
- 講演＆ワークショップ：藤島薫さん（東京福祉大学准教授）
 - 【演 題】対話（ダイアログ）をベースとした、安心の居場所づくり
 - 【ワーク】リスニングワーク、リフレクティング体験など
- 全体会 ゲストスピーカーとの質疑応答・対話
- 閉会

会場 ちがさき市民活動サポートセンター

申込期間 3/23(月)申込締切

対象 居場所づくりに関心のある市民、
市民活動団体、自治体、福祉団体等
職員、学校教員、自治会関係者等

申込方法 詳細は裏面参照、QRコード
からも申込可能

定員 30名（申込制、先着順）

*手話通訳・要約筆記、託児（6か月～3歳）
ご希望の方は3/12(木)までにお申し込みください



【主催】認定特定非営利活動法人NPOサポートちがさき(ちがさき市民活動サポートセンター指定管理者)

ゲストスピーカー



藤島 薫さん

福祉現場を経験した後、大原学園介護福祉士養成施設専任教員、旭川大学コミュニティ福祉学部准教授を経て、現在、東京福祉大学社会福祉学部准教授、博士（社会福祉学）。

2022年4月に一般社団法人オープンコミュニティおいでよハウス（埼玉県飯能市）を立上げ、代表理事。

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、評価士、認定社会福祉士認証・認定機構登録スーパーバイザー、ヘルシンキブリーフセラピー協会認定ファシリテーター、TCA認定カウンセラー、Anticipation Dialogue研修修了などを通して各種ワークショップを開催。

地域の居場所づくり交流会とは？

人々の社会的孤立が深刻さを増す中、茅ヶ崎市内では、2000年以降、市民活動団体や自治会などが運営主体となり、様々なタイプの居場所が開設・運営されてきました。

しかし、居場所の運営者が集まり、悩みを語り合い、互いの知恵を交換・共有する場が少なかったことから、サポセン事業として、2016年に「地域の居場所づくり交流会」をスタート。コロナ禍の時期のオンライン開催を含め、これまでに9回開催してきました。

「居場所のはじめ方」「住み開き」「子どもの居場所」「社会的処方」「まちライブラリー」などをテーマに、多彩なゲストスピーカーによるレクチャーと市内外の居場所づくり実践者による先駆的な取り組みの事例紹介、グループワークを通じて、交流の輪がひろがっています。

最終回となる今回は、オープンダイアログの理論・実践に詳しい藤島薫さんをゲストに迎え、「対話」をテーマに、講演とワークショップをしていただきます。社会の分断が深刻化する今日、改めて「対話」の意義を再認識する場にしたいと考えています。

▼ 参加申込書 ▼

（表面のQRコードからもお申込みいただけます）

3/23（月）申込締切

地域の居場所づくり交流会X 申込書（開催日：2026年3月28日（土））

ふりがな お名前		所属 (団体名)	
TEL		FAX	
メールアドレス			
希望するものに ☒	☐ 手話通訳 ☐ 要約筆記 ☐ 託児(6か月～3歳/先着3名) 3/12(木)までにお申込みください		
通信欄			

※いただいた個人情報は、当該事業で必要な範囲でのみ使用します

【お申込み・お問合せ先】

ちがさき市民活動サポートセンター
(指定管理者：(認定特非)NPOサポートちがさき)

☎ 0467-88-7546
✉ s-center@pluto.plala.or.jp



ちがさきサポセン

